

今議会に提案された 11 月補正予算の主なもの

熊本地震復興関連に 9 事業・11 億 4,500 万円

【復興基金事業】* 県から配分の復興基金を市で 30 億 3,200 万円基金へ積立

- 被災者提供用市営住宅の空き家修繕費 1 億 3,000 万円
仮設住宅等入居者へ提供する 250 戸分 (2018 年度はさらに 250 戸予定)
- 被災した合併処理浄化槽の取替えへの助成 4,260 万円 (下水道計画区域内)
- 被災した町屋の復旧保存への助成 7,000 万円
- 迅速な情報共有のための災害対策本部設備整備費 920 万円
- SNS を活用した防災・地域情報等の発信や広報の経費 400 万円
- 被災小規模事業者の生産性向上等のための設備投資助成 1 億 30 万円

【基金事業以外では】

- 熊本城災害復旧経費 8 億 2,000 万円
- 災害公営住宅整備 (調査・設計費) 4,400 万円
- 旧 NHK 熊本放送会館への震災関連資料保存の改修費等 220 万円 他

地震以外での補正予算

- 幼稚園・保育園等の保育士処遇改善等にかかる費用 11 億 7,000 万円
処遇改善等に関する給付費単価改定に伴う施設型給付費の増額
- 少子化対策推進費 (企業への情報等提供の結婚支援) 240 万円
*その他、介護保険・国民健康保険等におけるマイナンバー制度にかかるシステム改修費など

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

上野みえこ なすまどか 山部ひろし

熊本市中央区手取本町 1-1 3 階

NO. 1074
2017年11月26日
電話 328-2656
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

HP：共産党 熊本市議団 検索



なすまどか議員が一般質問を行います



本会議場が復旧し、一般質問が行われます

日時：11月27日 (月) 午後2時より 場所：議会棟5階 本会議場

震災から1年7カ月が経過しました。医療費減免の打ち切りなど、被災者に冷たい仕打ちは許されません。熊本地震による被災者支援の拡充など求め、一般質問を行います。ぜひ傍聴にお越しください。



質問項目

- 熊本地震について
 - ・ 医療費減免の復活・再開
 - ・ 住まいの確保について
 - ・ 住宅再建への支援制度の創設
 - ・ 支援制度の打ち切り問題
- 立野ダム問題
- 国保料の軽減や差し押さえ問題
- 公契約条例の制定
- 給付型奨学金の創設について
- 放課後デイサービスの拡充 など

【控室から】

むさし秋フェスタ前夜祭『武あかり』

なすまどか



11月18、19日、北区武蔵校区の「秋フェスタ」が開かれました。初日・前夜祭のメインは、校区中学生による三角紙灯籠、小学生作成の牛乳パック灯籠による『武あかり』です。今年は例年の1.5倍、約1000個の灯籠が展示され、とてもスケールの大きな催しになりました。当日は、寒波と強風に見舞われ、灯籠を並べたところに風で飛ばされる、を繰り返して、はたして時間通りに開催できるだろうかと危ぶまれましたが、小学生たちも手伝ってくれて無事に開催にこぎつけました。いずれの灯籠も、デザインやイラストなど趣向が凝らされており、目を見張るものが多くありました。添えられたメッセージには「平和」や「希望」をうたったものが多く、子どもたちの心のなかにも、世界で多発する戦争・テロや紛争などが影をおこしているのだからどうかと考えさせられました。平和な世界をしっかりと子どもたちに引き継ぐ。私たちの責任です。



市政懇談会 大型開発優先ではなく、市民に寄りそった市政を！

11月8日、日本共産党熊本市議団は、12月議会にむけて市民のみなさんご意見、ご要望をお聞きする「市政懇談会」を開催しました。

懇談会では参加者から、震災復興、再開発の問題、子どもの貧困対策など、さまざまな声がよせられました。

いただいたご意見はしっかりと受け止め、その実現にむけて力を尽くします。

冒頭、市議団から市政報告を行いました。やまべ市議が、前回の一般質問で取り上げた被災者支援打ち切りの問題などを、上野市議が、北口議員の特別委員会について、なす市議は中心市街地再開発への新たな支出の問題点について発言しました。



それを受けて参加者から、様々な質問、意見が出されました。

【寄せられたご意見】

「みなし仮設住宅に入居している。入居期限が一年延長になったが、条件があると聞いていて心配。必要な人はすべて延長の対象にしてほしい」

「仮設入居者同士の交流会、たった一度開かれただけ。もっと交流の機会をつくってほしい」

「みなし仮設の入居期限が終わった後は、とても今の家賃を払えない。補助してほしい」

「自宅擁壁の改修工事に補助を受けるためには、まず全額を立て替えないといけない。銀行のローンを組めないため大変だった。全額立て替えしなくてよいようにしてほしい」



「緊急避難所対応の公園には、トイレ、水飲み場の整備をしてほしい」

「医療費の減免を再開してほしい。減免中止で、受診を控える人が出るのではと心配」

「予算の使い方の優先順位をハッキリと市民に示し、もっと市民のために使って欲しい。ハコモノはいらない」

「子ども食堂は、ボランティア任せではなく、行政の支援がもっと必要。子どもの貧困調査の結果を他都市とあわせて報告してほしい」

「市の交通機関、特にバスは路線も便数も少なく大変不便。高齢でいずれは運転免許を返納することになると思うので、もっと整備してほしい」

立野ダムは一旦中止し、流域住民に十分説明を！

11月16日、「立野ダムによらない自然と生活を守る会」はじめ「県議の会」「市議の会」の3団体は、「立野ダム工事を一旦中止し、住民に十分説明することを国に求める要請書」、「世界ジオパーク指定の阿蘇・立野峡谷の柱状節理破壊と立野ダム本体予定地右岸の柱状節理保存に関する要請書」を市に提出しました。

参加者からは、福岡県朝倉の豪雨災害や立野峡谷の写真を示し「線状降水帯が阿蘇を襲えば、流木と土砂でダムの放流穴が詰まり、下流に大きな被害をもたらす

かねない。市長は受益地としてダム建設を要望しているが、逆に被害地になる可能性があり、市として良く検討すべき」などと訴えがありました。

市にも十分な検証と説明責任が求められます。

要請には共産党市議団、山本伸裕県議が参加しました。

